

經濟財政諮問會議（平成29年第10回）
未来投資會議（第10回）
議事録

内閣府政策統括官（經濟財政運営担当）

経済財政諮問会議（平成29年第10回）
未来投資会議（第10回）
議事次第

日 時：平成29年6月9日（金）17:15～17:35
場 所：官邸4階大会議室

1．開 会

2．議 事

- （１）「経済財政運営と改革の基本方針2017」（案）について
- （２）「未来投資戦略2017」（案）について

3．閉 会

（石原議員） ただいまから、経済財政諮問会議・未来投資会議合同会議を開催いたします。

○「経済財政運営と改革の基本方針2017」（案）について

（石原議員） 本日は、臨時議員として、塩崎大臣、加藤大臣にも御参加いただいております。

まず経済財政諮問会議の議題から行います。「経済財政運営と改革の基本方針2017」について、資料1のとおり、総理から諮問いただいております。また、副題は総理と御相談させていただきまして「人材への投資を通じた生産性向上」とさせていただきます。

それでは、答申案について、越智副大臣より説明をお願い申し上げます。

（越智内閣府副大臣） 資料2をご覧ください。本日は、前回の諮問会議での議論や与党での審議を踏まえました主な変更点を説明させていただきます。

第1章におきましては、3ページ、上段中央部におきまして、「東日本大震災からの復興・創生」に、観光復興に関する記載を充実させました。

第2章におきましては、11ページ、中ごろにおいて、「少子化対策、子ども・子育て支援」に、医療的ケア児の記載を追記いたしました。12ページ、中ごろ、「Society 5.0の実現を目指した取組」における「①戦略分野 ii）移動革命の実現」に、ドローンの産業利用の拡大を記載いたしました。15ページ、中ごろ、「文化芸術立国」に、文化による国家ブランド戦略、文化産業の経済規模（文化GDP）の拡大に向けた取組を明記いたしました。21ページ、中ごろ、「攻めの農林水産業の展開」に、食品ロスの削減に向け、国民運動を進め、異業種とも連携する旨を追記いたしました。23ページ、中ごろ、「沖縄振興」関係に、人材育成拠点の形成などを追記いたしました。25ページ、上段、「外交」に、法の支配などの普遍的価値を世界に広めることやソフトパワーも活用することを記載いたしました。26ページ、中ごろ、「治安・司法・危機管理等」に、更生保護サポートセンターの拡充に関する記載を盛り込みました。

第3章におきましては、34ページ、下段、「介護保険制度等」で、認知症医療における循環型の仕組みの構築を記載いたしました。最後になりますが、35ページ、中ごろ、「薬価制度の抜本改革等」に、「医薬品産業強化総合戦略」の見直し等を盛り込みました。

私からの説明は、以上でございます。

（石原議員） それでは、ただいま越智副大臣から御説明がございました、そして、卓上に配らせていただいております案で経済財政諮問会議として答申させていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

（石原議員） ありがとうございます。本案を答申として決定させていただきます。

それでは、民間議員の方から御発言いただきたいと思います。私から御指名させていただきます。

榊原議員、お願いいたします。

（榊原議員） 今般の「骨太方針2017」では、Society 5.0を始めとする成長戦略の実行、人材への投資を通じた経済社会の生産性向上、働き方改革による成長と分配の好循環の実現などに向けた、具体的な取組を網羅的に盛り込んでいただいております。経済界の考え方とも軌を一にするものでございまして、高く評価したいと思います。

経済界は今般の結果を踏まえまして、民間の研究開発投資の対GDP比率3%を目指して、引き続き拡充に努力してまいりたいと考えております。政府におきましても、政府研究開発投資対GDP比1%を目指して、着実な取組を進めていただきたいと思います。官民を合わせて、対GDP比4%を達成したいと思います。こうした取組を通じて、Society 5.0の実現に向けた改革への機運を高めていくことが必要だと考えます。

もう一点、経済・財政一体改革の推進についてですが、そのうちの社会保障改革では改革工程表の44項目の確実な実行が不可欠であります。特に2018年度は当初3年間の集中改革年の最終年度に当たります。経済・財政一体改革の中間検証を行う年になるわけですが、この検証に耐え得る成果をきちんと出していく必要があります。そのためにも、引き続き社会保障関係費の伸びを目安である5,000億円に抑えることが、極めて重要なポイントです。この夏以降、経済財政諮問会議としてしっかりとフォローしてまいりたいと思います。また、こうした取組を通じて、2020年度の財政健全化目標を達成すべきだと考えます。

私からは以上です。

（石原議員） 続きまして、新浪議員、お願いいたします。

（新浪議員） まず本年度の骨太方針策定に当たりましては、関係府省庁に大変御尽力いただいたこと、改めて感謝申し上げます。

とりわけ、社会保障分野、特に医療は、大変深く突っ込んだ内容になったと考えており、様々な制度改革が盛り込まれました。塩崎厚労大臣におかれましては、引き続き、リーダーシップを発揮して、この改革の実現をお願いしたいと思います。

今、人手不足が大きな課題になっておりますが、価格転嫁がようやく起き始めてきているのではないかと思います。賃上げも4年連続で実現しており、更なる生産性向上とともに、このモメンタムを維持しましてデフレから完全なる脱却を目指していくべきであり、さらに、経済社会の生産性向上により経済成長をより活発にし

ていくべきだと思います。その結果としまして、2020年度のP Bの黒字化、同時に債務残高対G D P比の安定的な引下げ、この2つの目標を達成していくべきだと考えます。

また、経済・財政一体改革推進委員会での見える化の取組が深化しておりまして、エビデンスベースでの政策立案が現実成果を生みつつあります。これをより広い範囲で深め、そして、ワイズ・スペンディングにつなげていくべきだと考えております。

最後に、本日の日経新聞の第2面に、薬価引下げ削除、という薬価改革を全面的に断念したかのような、非常に誤解を与えるような記事がございましたが、本骨太方針は、国民全体のQ O Lを引き上げていく改革になっているということを、ぜひとも国民の皆さんにしっかり御理解いただくような、そういうコミュニケーションをとっていくべきではないかと思っております。

以上でございます。

○「未来投資戦略2017」（案）について

（石原議員） それでは、次の議題、未来投資会議に移らせていただきたいと思います。

「未来投資戦略2017」について、副題は、前回お示ししましたとおり、総理と御相談の上、「Society 5.0の実現に向けた改革」となっております。

取りまとめ案につきまして、越智副大臣、引き続きお願いいたします。

（越智内閣府副大臣） 資料3－1及び資料3－2をご覧ください。前回の未来投資会議での議論や与党での審議を踏まえて、必要な修正を施しましたので、御説明を申し上げます。

与党の皆様方からは、「未来投資戦略2017」で掲げるSociety 5.0という新たな社会の実現に大いに御賛同いただきつつ、メッセージ・施策の強化、必要となる施策の追加をしていただいたところでございます。

主なものとして、具体的には、資料3－1、5ページ、中ごろにおきまして、基本的な考え方として、Society 5.0の実現には、個人や企業など社会のあらゆる主体の試行錯誤に加え、「失敗しても再び挑戦できる」ということが同時に重要であるため、この文言を追記いたしました。

次に、資料3－2、93ページ、中ごろをご覧ください。個人の力が社会を動かしていく中、教育・人材力の抜本強化のために、大学のみならず、高等専門学校も含めた教育体系の高度化を進め、高等教育機関全体として取り組む必要があるため、最後のポツに、高等専門学校について、というくだりを追加いたしました。

続きまして、資料3－2、114ページ、中ごろでございます。企業についても、中長期的な企業価値の向上を図るべきであり、人材力、研究開発力、ブランド力な

ど、という文言を追加し、具体例を盛り込んだところでございます。

私からの説明は、以上でございます。

（石原議員） ただいま越智副大臣より御説明いただきました「未来投資戦略2017」について、未来投資会議として取りまとめます。

（案のとおり取りまとめ）

（石原議員） それでは、民間議員の皆様から御発言いただきます。私から御指名させていただきます。中西議員、お願いいたします。

（中西議員） ありがとうございます。

経団連の総会後のパーティーで、安倍総理から「Society 5.0」と発言いただきまして、こういうコンセプトが総理の口から、日本が進んでいく未来の姿を語るという形で提示された、この意味は大変大きいと思います。

デジタル化の波を往々にしてネガティブに受けとめるのではなくポジティブに、そして、その次の社会をどう作っていくかという受けとめ方を日本がしている、このメッセージは大変重要だと思いますし、経済界としてもこれを中心に据えて、色々な活動を徹底して、日本は安全・安心、住みやすい、そして、イノベーションのやりやすい国にしていくということに、総力を挙げて取り組んでいくべきだろうと思います。これがまず第1点です。

同時に、デジタル化の波は各国が捉えているように、色々な形でネガティブなインパクトもないわけではございません。業界を再編していくような、あるいは我々の事業基盤の根底を揺るがすようなことも往々にして起こる。これをネガティブに捉えては決していけないということが大変重要だと思います。市場環境も変わってくる、企業間の関係も、競争と同時に連携、そういったダイナミックな動きをやっていくような、こういうポジティブな捉え方を日本が先頭を切ってやっていく。色々申し上げていますがこれも決意表明でございますので、前向きに受けとめていただきたいと思います。そういうことをこれから強力に推進していきたいと思えますし、産官学が力を合わせてやっていく、こういうふうに思っておりますので、また御指導、御鞭撻をよろしくお願いしたいと思えます。

（石原議員） 決意表明として受け取らせていただきます。

引き続きまして、金丸議員、お願いいたします。

（金丸議員） 未来投資戦略2017について、一言述べます。

今や、個人が、80年代のスパコンを越える性能を有したスマホを、生活の必需品として、情報収集、ショッピング、旅行など、ありとあらゆるシーンで使っています。個人のライフスタイルの変貌は、産業構造にも急激な変化をもたらしています。米国では、挑戦意欲に富んだ若者が、技術革新に取り組み、イノベーションと新た

な富を生み出しています。中国における技術革新の社会実装スピードは、米国をも上回りつつあります。今や、世界中どこにいても、アイデアとやる気がありさえすれば、ビッグチャンスの時代です。

今回、テーマとして掲げましたSociety 5.0は、日本のオリジナル性や潜在能力を肯定的に捉え、目に見えない文化的価値も視野に入れながら、社会課題を解決し、格差の少ない未来に夢の持てる新しい社会を作り出そうとする、政官学民で取り組むビジョンであり戦略だと理解しています。国際競争力の向上を目指すことは言うまでもありません。付加価値の源泉がモノやカネからデータと人に移りました。示された重点5分野の共通項も、データの戦略的活用と新しい時代にふさわしい人材です。地方創生の要は一次産業の活性化とアントレプレナーの輩出であり、一次産業におけるA I ロボットやI o T、ドローンの活用は、医療や介護分野の活用と同様に大いに期待できると考えています。インフォームド・コンセントをベースにした、まずはやってみる、プロジェクト型サンドボックスの適用分野は、FinTechに限らない幅広い大きな挑戦です。失敗から得られるデータも成長の貴重な資源である、との発想の転換は極めて重要です。リスクテイクは付加価値を生み出すために不可避で、わくわくする起業による成功ストーリーが全国津々浦々でたくさん生まれるようにしていかなばなりません。人生100年時代における教育制度の再構築、大学における文系・理系を始めとする様々な縦割り構造の打破など、これらの改革なくしてはSociety 5.0は実現できません。

骨太のテーマである「人材への投資を通じた生産性向上」に関する施策と、未来投資戦略のテーマである「Society 5.0の実現に向けた改革」に関する施策は、一方の施策のみでは完結せず、車の両輪として展開されていくことが重要です。シングルイシューの成果を追うのではなく、つながりのある成果を出していただきたいと考えています。このため、とりわけイノベーションの社会実装による成長戦略を政府横断的に強力に推進するための一元的な体制作りに注力していただきたい。民間も異次元かつ非連続な発想で臨みますので、政府においても戦略を共有していただき、大胆かつスピーディーに政策を実行するようお願いします。

以上です。

（石原議員） それでは、ここでプレスを入れます。

（報道関係者入室）

（石原議員） それでは、総理、よろしくお願いいたします。

（安倍議長） 本日、こうして「骨太方針2017」と「未来投資戦略2017」を取りまとめていただき、心から感謝申し上げます。

4年半のアベノミクスの取組により、G D Pは過去最高の水準となりました。国

民生活に密接な関係を持つ雇用は大きく改善し、賃上げの流れも続いています。この勢いを更に加速させ、「成長と分配の好循環」を拡大していくため、働き方改革の実行に加えて、「人材への投資を通じた生産性の向上」を図る、また、イノベーションをあらゆる産業や日常生活に取り入れ社会課題を解決する「Society 5.0」の実現を図る、そのために必要な取組を、どんどん具体化してまいります。

この後、骨太方針と未来投資戦略を閣議で決定いたします。石原大臣におかれては、関係大臣と協力して、骨太方針と未来投資戦略を直ちに実行に移していただくように、お願いいたします。

議員各位には、多大な御尽力をいただきましたことに改めて感謝申し上げますとともに、一億総活躍社会の実現に向けて、引き続き御協力を賜りますように、よろしくお願いを申し上げます。

（石原議員） ありがとうございます。

それでは、プレスの皆様は、御退室をお願い申し上げます。

（報道関係者退室）

（石原議員） 皆様、どうもありがとうございました。取りまとめに当たられた議員、または関係者の皆様に心から感謝を申し上げまして、そして、総理からもお話がありましたように、いよいよ実行でございますので、また格段の御協力、御指導をお願い申し上げまして、本日の合同会議は、お開きとさせていただきます。